

2025（令和7）年度

# 武蔵大学 FD 活動報告書

武蔵大学ファカルティ・デベロップメント(FD)委員会

武蔵大学長 高橋 徳行

2025 年度は、私たち一人ひとりにとって「変化することの意味」を改めて考えさせられる一年でした。昨年春には大阪・関西万博が開幕し、多くの人々が未来への希望を胸に世界から集いました。一方で、国際社会では依然として不安定な情勢が続き、中東情勢やウクライナ情勢など、平和の尊さを思い起こさせる出来事が重なり、紛争の多くは解決の見通しも立っていません。国内では年初の寒波や夏の猛暑に見舞われ、気候変動がもはや避けて通れない現実であることを強く意識させられました。

しかし、そのような中にも私たちを励ます出来事がありました。ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックでの日本代表の活躍は、努力を重ねることの尊さを教えてくれて、日本中が勇気づけられました。そして AI をはじめとする新しい技術の進展は、教育や研究のあり方にも大きな可能性をもたらしています。

「未来はすでに始まっている」—そう感じる場面が多かった年でした。

教育の現場でも、こうした社会の動きと無縁ではられません。むしろ時代の変化を先取りし、次の時代にふさわしい学びを生み出す責任があります。そのために必要なのは、現場で起きていることを理解し、そこで働く教職員一人ひとりの声に耳を傾けることです。最初の変化は常に現場から始まります。本学で展開している FD 活動の意義は、まさにそこにあります。現場の知を大学の力へと変えていくことが求められています。

2027 年度からの新カリキュラム開始に向けて、教育改革はすでに動き出しています。データサイエンス教育の充実や生成 AI を活用した学修支援、国際教育の再構築など、多面的な挑戦が始まります。これらを支え、定着させる軸が FD 活動です。変化の時代だからこそ、私たちは学び合い、語り合い、そして次の一歩を共に踏み出していく必要があります。

少子化は深刻な課題であり、2025 年の日本人の出生数は 60 万人台と、いよいよ人口減少の現実を突きつける数字となりました。大学を取り巻く環境は厳しさを増していますが、だからこそ本学の教育の灯を絶やすことなく、次代を担う若者たちに「学ぶ喜び」と「挑戦する力」を育む使命があります。

これからも、現場と大学が共に成長し続ける場として FD 活動をさらに発展させ、教育の質向上を未来へとつなげていきたいと思えます。教職員の皆さんの変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。2025 年度の FD 活動報告書の巻頭言といたします。

近年、武蔵大学における授業運営は、対面授業を基盤としながら、オンラインやデジタルツールを適切に組み合わせた形で安定的に実施されています。キャンパスでは日常的に学生の往来が見られ、教育活動はおおむねコロナ禍以前の状況に近い水準を取り戻しています。一方で、オンライン授業やメディアを活用した学修支援は補完的な手法として定着し、教育実践の幅を広げる要素となっています。

こうした教育環境の変化は、新型コロナウイルス感染症への対応を契機として進んだ側面もありますが、現在ではそれを一過性の特例としてではなく、平常時の教育運営の中に組み込まれたものとして捉える段階に入っています。対面とオンラインを対立的に捉えるのではなく、教育目的に応じて使い分け、組み合わせることで発想が共有されつつあります。

また近年は、AI 技術の進展により、教育を取り巻く環境は新たな局面を迎えています。生成 AI を含む各種デジタルツールは、授業準備や学修支援、学修成果の整理・可視化などにおいて、教員・学生双方の学びを支える基盤として活用が広がっています。その一方で、学修の主体性や評価の妥当性、AI の適切な利用方法など、教育として丁寧に検討すべき課題も明らかになりつつあります。

2025 年度は、こうした状況を踏まえ、教育の在り方を「非常時対応」から「平常時の質保証・高度化」へと明確に転換していく段階にあったと言えます。本年度の FD 活動は、デジタル化や AI 活用を教育運営の前提条件として共有しつつ、今後の教育改善に向けた基盤を整える一年として位置づけられました。

このような状況のもと、2025 年度には以下の FD 活動を実施しました。

第1に、春学期及び秋学期に実施している「授業評価アンケート」については、今年度も引き続きウェブ形式で実施しました。自由記述項目を含めた設計により、定量的な評価指標だけでは捉えきれない学生の学修経験や具体的な改善提案を把握することを重視しています。回答率については依然として改善の余地があるものの、対象授業数の増加に伴い、寄せられる意見やコメントの総量及び多様性は拡大しており、授業改善に資する情報基盤としての役割は着実に強化されています。今後は、収集した結果をどのように共有し、教育改善に結びつけていくかが引き続きの課題となります。

第2に、FD・SD 研修会については、教学マネジメントの高度化を重要なテーマとして位置づけ、今年度もオンライン形式にて開催しました。2025 年7月 17 日(木)には、株式会社ベネッセ i-キャリアより講師をお招きし、「教学マネジメント～学修成果に基づく3ポリシーの検証～」をテーマとした研修を実施しました。本研修では、ディプロマ・ポリシーを起点とした教育の設計・運用・検証の考え方について、学修成果の可視化やエビデンスに基づく検証の重要性を中心に講演が行われました。学長挨拶、講演、質疑応答という構成のもと、全学的な視点から教学マネジメントへの理解を共有する機会となりました。

第3に、11 月 27 日には FD フォーラムをオンラインにて開催しました。「武蔵大学の教育(授業)に対する改善点について」というテーマのもと、今年度も学部及び教職課程に分かれて実施しました。4学部及び教職課程の学生がそれぞれの枠組みで議論に参加し、授業方法や学修環境、学びの支援体制などについて、具体的かつ建設的な意見や提案がなされました。これらの意見は教育改善に向けた重要なフィードバックとして整理され、教職員間で共有することを重視しています。フォーラム終了後には、登壇学生からの意見及びそれに対する対応方針をまとめた資料を作成し、全学的に共有する取り組みを進めています。

以上のように、2025 年度の FD 委員会の活動は、これまでの取り組みを基盤としながら、教育運営の安定化と次年度以降の改善に向けた土台づくりを意識したものとなりました。本報告書の末尾には、会議記録や関連資料を掲載しています。これらを通じて、本学における FD 活動の現在地をご理解いただければ幸いです。